

---

# 人間ギリギリデン子ちゃん

自殺肢体

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

人間ギリギリデン子ちゃん

### 【Nコード】

N1875E

### 【作者名】

自殺肢体

### 【あらすじ】

電撃リトルリーグ応募作品。会話のみだが、短いんだし、こういうのもいいんじゃないの？と思いましてな！

**（前書き）**

2000字を超えてますが、投稿したのはそれ以内に収まりましたよ。

「止める！ その、動くたびに響く不快なモーター音を！」

「それは無理です。人間で言えば、心臓の鼓動ですので」

「ああ……百五十万円も出して初めて買ったメイドロボが、こんな欠陥品だなんて！ しかも常にコンセントで電力を供給しとかなないと動かないし！」

「それは、オマエが私のような安物を選んだから悪いのです」

「ご主人様って言えばよ！ くそ！ なにが『百万＋で、寂しい貴方の永遠のパートナーに』だよ！ 名前すら覚えてくれないし！」

「あんまり怒ると、歯の間から毒液が出てきますよ」

「こ、恐いこと言っなよ（虫歯あるし）。……まあいい。デン子、メシ作ってくれ！」

「それは無理です。コンセントの長さ、七十センチしかないですから、台所まで届きません。いくら狭い四畳半とはいえ、無理ッス」

「狭い言っな！ それに、お前……なっ、七十センチ？ ありえねえ……」

「百五十万じゃ、そんなもんです。自分で作って下さいな。ファイッ！ ファイッ！」

「ナニと戦えってんだよ……。まったく、クソの役にもたたんパー  
トナーだな！」

「まさに『看板に偽りあり』ですね」

「自分で言うな！ あゝあ。

外見と声が好みじゃなかったら、廃棄処理してるところだぞ！」

「……私にかかれば、人間の頭なんぞ、トマトのようなモノなのだ  
……」

「……アハハッ！ 冗談に決まってるじゃん！（怖いよコイツ……）  
」

「そうですね。オマエみたいなもん、私のようなロボット女以外  
に相手にされるハズないですしね。エヘヘ！」

「愛らしい笑顔と声で、ヒドいこと言うヤツだな！ ……ところで、  
+ で五十万も取られてるんだけど、どんなオプションが付いたん  
だ？」

「コミュニケーション機能」

「それ、オプションなの！？」「あ、あと一万だせば、充電機能が  
付いて、コンセント無しでも活動できたんですけどね」

「無理だよ！ もう、全財産五十円しかないし！ くそお……クレ  
ームでも付けないと気が済まん！」

「……ハア。お金をかければ色々アップグレードできるって、サポ  
ートのお姉さんに優しく諭されちゃったよ……」

「ウフフ！ 恥と引き替えに手に入れた情報ですね。ウフフ！」

「嬉しそうな顔してんな！ ……ふん、よし。じゃあちよつと揉ま  
せてもらおうか？ もちろんいいよな！」

「どうぞ」

「……え？ か、硬い？！ なにコレ！ サギよ、こんなのー！」

「思わずおネエ言葉になるほど驚いたんですね。でもやっぱりオマ  
エ、それ目的で……」

「当たり前だ！ いかかわしい目的でメイドロボを買わずしてなに  
が青年男子かと！」

「ムダに男らしいですね。でももっとお金かけないと、私は人間に  
近い存在にはならないですよ」

「柔らかいオツパ……いや、肌には幾らかかるんだよ？」

「五十ないし二百万」

「幅、ありすぎだろ！ ……五十万なら、最短あと五、六ヶ月は貯  
金しないといけないのか……」

「月給十五万円のオマエにはツライですね。てへへ！」

「勝手に決めんな！ 手取りで十八万だ！ ボーナスは二十万！」

「まあ、オマエがどういう人間でも、私のマスターであるワケですし、めんどくさいけど死ぬまで愛し続けてあげますよ。一応」

「快・不快な言葉が混じりあって、どう反応すればいいのやら……。とりあえず喜んでおくか。ワイイ！」

「ワイイ！ だって、ウププ！ 長ネギみたいな人ですね」

「どういう例えなんだ？ ワケわからん！ もういい、寝よう。なんか疲れた……」

「それでは、私も一緒に……。服、脱ぎますから……」

「え……おい、なかなかセクシーな下着姿じゃん……。でも、モーター音がうるさくて眠れんし、電気代も気になるから、コンセント抜くよ！」

「……スー、スー」

「……寝てるよ、ロボットのくせに。無駄にリアルな機能だな」

「……ああ！ もずくにソースなんか掛けちゃダメ……世界が滅亡……スー」

「どういつ夢見てるんだよ。まあいい、コンセント抜いて、おやすみなさい」

「……ん？ ギャア！ なっ、なにしてんだお前！」

「目覚めのキスですけど？」

「冷たくて硬いから、鉄でも食わされてるのかと思ったたっつーの！  
というかなんで動けてる？！」

「充電機能はなくても、一分程度は動けますので。でも、自分でコンセント差してはいけないようプログラムされてるので、早く！」

「……はい、差したよ。でもデ月子、目覚めのキスはマジでやめてくれ！ 心臓に悪い！」

「臆病な長ネギですね。そんなことで、まともに人間社会に適應できてるんですか？」

「いいや、あんまり……」

「大丈夫。私が居ますから。とりあえずアップグレードの為の貯金をしましょう。堅実に、です。借金はダメ！」

「は、はい」

「私が、金銭の管理をしましょう。オマエは、普通に働いておけばよろしい。オールオッケー？」

「なん……いや、それでやってみるか。お前の永遠のパートナーっぷりを見せてもらっよう！」



「お任せ下さい、マイ・マスター・オマエ!」

「……ハア。まあいいや、よろしく頼むよ、デ月子」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1875e/>

---

人間ギリギリデン子ちゃん

2010年10月20日18時53分発行